

書くことは自分さがし

出久根 達郎

ふくい風花随筆文学賞。何と美しい響きの名称でしょう。晴れ渡っているのに、音もなく舞う雪。ひとひら、ひとひらが日に輝いて、銀紙のように光る。風花。私は新品のホワイトシャツを思い浮かべました。いや、袖のボタンです。

そして、なぜホワイトシャツのボタンを連想したのだろうか？と不思議に思いました。風花とボタンの関係を探ってみよう、たぶん思い出の中にあるはずと、こうして文章を書き始めたところですよ。

書くことは考えること、自分が何者であるか、見つけることなのですね。書いたら読み返すのが、大事です。自分が書いた文章と思えない。違つ自分が記したのでは？ 本当の自分はどこにいるのか。書けば書くほど、わからなくなる。同時に書くことが楽しくなる。本当の自分さがしが、そこから本格的に始まる。

書くことで、人は成長するようです。自問自答がよろしいのでしょうね。

このたび私が特別審査委員長に就任しました。一緒に文章の妙を学びましょう。どつどつよろしくお願い申し上げます。